

# 寺子屋方式で人材を育てたいと思っています

の間、愛知県の岡崎信用金庫から取材がありました。「岡崎の信用金庫さんが、なんでわざわざ？」と聞きますと、役員の方が「原子力文化」を読んで、青木さんが面白そうだからインタビューして来たら、と言ったそうです。載せてくれるのは、岡崎信用金庫が出してる『MONTHLY REPORT』という雑誌だとのこと。「原子力文化」も捨てたもんやないです。

岡崎信用金庫は信用金庫としては、総資産が全国のベスト3に入るそうです。地域をしっかり支えてる企業なんですから。そんなところから反応があると、とてもうれしくなります。僕はプロの物書きでも、評論家でもありませんが、読者のみなさんが、このコラムを、どう読んでくれるか、いつも気にかけてます。ここでは、今までやってきたこと、そして、これからどうしようとしているかを、恥を忍んでさらしてつもらいます。

先行き不透明な世の中で、去年からは、コロナ禍までからんでしても、みなさん困ってると思います。そんな中、中小企業のおっちゃんが、七〇歳過ぎても、まだ頑張ってるのを見て、読者のみなさんが、なんかしら感じてくれればええなと思います。

幸い、この『原子力文化』だけでなく、ビデオやリモートでの講演も、ポチポチ入ってます。僕としては、会場で皆さんの顔を見ながら、反応を見ながら、話を進めていくのが、一番やりやすいんですけど、コロナ禍でなかなか集まれませんから、そうもいきません。

それでも、どんな人たちが、僕の講演を見るのか、出る前によく聞いて、話すようにしてます。どこかの研修なんかで、僕の講演にあたった人は、何か感想いただけると、うれしいです。あつ！。感想は、『原子力文化』編集部宛でもかまいません。「ええよな！東京のおっちゃん」（笑い）。苦笑いしてるけど、大丈夫なようです。みなさんお願いします。

## お金の使い方をしっかり勉強してほしいと思います

さて、ビデオやリモートでの講演といいますが、それを毎日やってるのが大学です。昨年入った一年生は、オンライン授業ばかりで、友達もなかなかできないような環境らしいです。かわいそうやねえ。僕やったら、とても耐えられませんわ。

そんな決して恵まれない環境の中でも、全国の大学は今、生き残りをかけて改革に努力しています。



◎(株)アオキ取締役会長

**青木 豊彦** (あおき・とよひこ)



1945年大阪府生まれ。1997年(株)アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。また東大阪の技術力を生かし人工衛星「まいど1号」を開発、2009年に打ち上げ成功。その後無人垂直飛行機「AKITU」も開発に成功した。2014年4月、国立和歌山大学客員教授に就任。2016年には大阪市立大学学長特別顧問に就任。2020年、国立滋賀医科大学有識者会議委員に就任。(一財)ものづくり医療コンソーシアムの理事としても活躍中。

僕も、関西のいくつかの大学に関わっています。中でも学長特別顧問を拝命している大阪市立大学は、大阪府立大学と統合して、大阪公立大学になります。二〇二二年四月には開学の予定やから、もう来年ですわ。早いなあ。

学校でもいろいろ考えてますけど、僕、個人としては、お金の有効性、使い道をしっかり考えられるような勉強をしてほしいと思ってます。これは学生ばかりやのうて社会人にもです。お金より大事なものがあ、とよう言われます。それも事実です。そやけど、お金がないとだめ、ということも事実です。

例えば、自治体はお金がなくなってしまうたら、福祉サービスなんてとでもできません。財政破綻したら、独自の事業はもとより、税金は上がるわ、市民サービスは減るわ、公立の小中学校や文化会館は統合されたり、閉鎖されたりしてしま、います。コロナ禍で、国から給付金などが国民にでています。それはそれで、仕方ないことやけど、その借金を次の世代に残さないように気をつけなあきません。

そのためにも、日本は、これからも世界に伍して、食える産業、お金の稼げる産業をつくっていか、な、と思、います。

**横並びやなくて多少はみ出ても  
ユニークな人材が必要になると思、います**

そういった産業を支える人材の養成には、江戸時代の寺子屋制度を見直してもええのやないか、と思、っています。

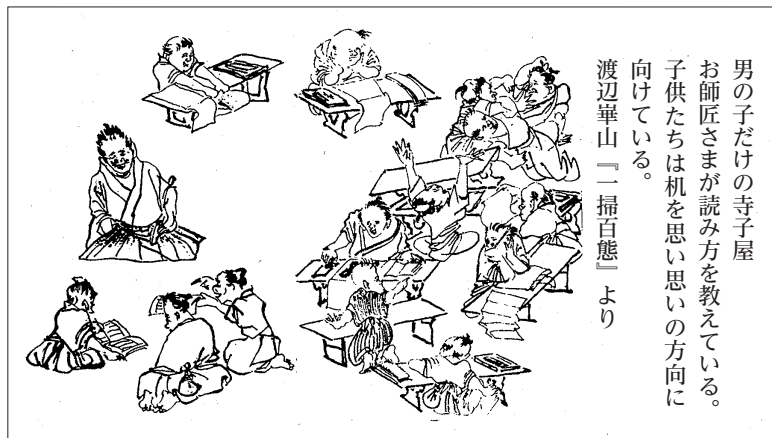
前にも触れましたが、日本の高度成長は、まじめさ、教育水準の高さ、集団で取り組むチーム力などを生かしたものだと思

うてます。例えば、工場のベルトコンベアに並んで、均一の優れた製品を作、って、世界に売り出したよ、うに……。そやけど、オートメーションの時代になり、さらにAIが出てきたら、ベルトコンベアで同じ作業をさちんと繰り返す人間は、いらんよ、うになるのかもし、れません。

人間がAIに使われるのやなしに、AIを使いこなさないけません。そのためは、なんでも横並びやなくて、多少はみ出てもユニークな人材が必要になると思、います。

江戸時代の寺子屋は、基本一対一の対面教育で、商売のためにそろばんだけの専門の師匠がいたり、字のうまい師匠を選んだり、子どもそれぞれに必要なことを教えてた、と聞いています。そして寺子屋は、入学年齢も決ま、っておらず、卒業資格もなかつたそう、です。

僕は、寺子屋方式でユニークな人材を育てて、決断力のある社長さんをつくりたいと、かねてから思、っています。



男の子だけの寺子屋  
お師匠さまが読み方を教えている。  
子供たちは机を思い思いの方向に  
向けている。  
渡辺華山『一掃百態』より